

## 本当にあったでござい

るい

これは私が小学二年生のころの話です。

その日は先祖を川に送り出す日で、その行事は私が住んでいる町の伝統行事でした。

その行事は毎年お盆の夜に家族やしんせきで集まって夜ごはんを食べた後、ろうそくに火をつけて川のはしの所にろうを落として、その上にろうそくを立てて先祖を川に送るとい内容でした。

でも一つだけしてはならないことがあったのです。その日、私は昼からおはかに行つて線香や水をさしに行っていました。おはかにまいって帰ろうとすると、一つのおはかの上から水がたくさんたれていました。でも私は、

「自分でかけたのかな？」

と思つてそのまま帰つてしまいました。

そのまま時間はたち、あつというまに夜になりました。

夜になるまで何もなかったのに、夜になったとたん不思議なことが起こりはじめました。でも私はまたまだらうと思つて気にしていませんでした。

そして、先祖を川に送る時間になり、家族としんせきで川に行つて、川に先祖を送り、帰ろうとしたとき、足に何か当たつた気がして、でも、ライトでつらしても何もなくて

「気のせいか」

と思つて、そのまま家に帰つていたとき、肩をたたかれた気がしました。でも、私はどうせまた気のせいだろうと思ひ、後ろを見ませんでした。

でもずっとたたかれていた気がして、後ろを見てもだれもいなくて、家族やしんせきは全員私より前にいました。

そのとき、私はあることを思い出しました。それは、川から帰っている途中に後ろを見てはいけないということなのです。このことが絶対にはいけないことだったので。

とたんにこわくなつて、走つて家まで帰り、いつもより早く寝ました。

次の日、朝起きてみると、私のふとんの上に線香が置かれていました。

その日から、毎日変なことが今もずっと起こっています。